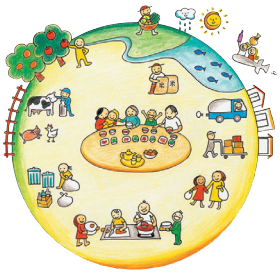
食にかかわる専門家をささえる

NPO法人 食生態学実践フォーラム



〒169-0075
東京都新宿区高田馬場 4-16-10 コーポ小野 202
TEL & FAX：03-5925-3780

2008.12.8　Vol.17

E-mail：forum0314@angel.ocn.ne.jp
http://www.shokuseitaigaku.com/

■東京都食育フェア　2008.10.12-13

東京農業大学けやき広場（東京都世田谷区）

農大、服部学園、華学園、昭和女子大、東京家政大学、戸板女子短大等の栄養学科と並んで、本フォーラムもブースを出しました。お天気にも恵まれ、若い方から中高年の方まで、いろいろな方が興味深く「３・１・２弁当箱法」の説明を聞いていました。また、男子学生が成分表を買ってくださったり、フォーラムの活動にも興味を持って質問していかれたのが印象的でした。

フォーラムスタッフの小学生の子どもたちも、弁当箱法や自給率のクイズの出題者として参加。他のブースの方から「自給率ののお兄ちゃんだ！　専門家だね」と声をかけられる一幕も。子どもに発信する側の役割があるプログラムは、送り手受けて双方にとって、意義のあることだと感じました。

（事務局：東　一代）

■食生態学連続講座Ⅲ

2008.11.8-9、11.15-16

日本女子大学（東京都文京区）

食生態学連続講座Ⅲ食看護編は、①食看護学のスタートライン、ナイチンゲールの考えから　②糖尿病とともに生きる人々への看護支援　③幼児期の便性改善のための食事の摂り方を考える　④ターミナル期の患者を食を通して支えること　⑤経管栄養法を受けている患者の語りから学んだ食の大切さ　⑥口腔外科の患者の食の援助　⑦家庭や地域での食生活援助　⑧生活過程を整える摂食ケアの講義及び演習　の８つのテーマについて、4日間にわたり実施しました。参加者は各20名前後でしたが、満足感は高く有意義な講座であったと思います。更に、食生態学の実践研究者と食看護学のメンバーとの意見交換を通して、食を中心とした実践の場において、人々の健康・幸福・福祉に貢献するコラボレーションの手がかりを、各々が掴むことができたと考えます。　（理事：尾岸恵三子）

■第３回公開研究会　2008.11.8

日本女子大学（東京都文京区）

今回は日々糖尿病患者の栄養指導を行っている管理栄養士さんから、糖尿病指導の現状についての話題提供がありました。テーマ１は「糖尿病食事療法における現状と課題」（野渡祥子神奈川県立足柄上病院栄養課長）。合併症を持った糖尿病やインシュリン導入の増加。そんな中での高齢化、独居や２人世帯の増加、変則勤務や夜型生活等の様々なライフスタイルに合せた糖尿病指導を行っているが、糖尿病であっても自分らしい食生活や生き方ができる、実践しやすい食事療法のやり方がないか模索している。地域との連携も視野に入れて、多くの問題提起がありました。

テーマ２は『糖尿病外来における栄養指導と「3・1・2弁当箱法」』（平良・クリニック平良管理栄養士）。糖尿病の専門クリニックの診療方針として、食事療法、運動療法を大変重要視しており、その連携も密である。診療経過や緻密な食事記録の基に行われている栄養指導の実際が紹介されました。比較的アバウトな「3・1・2弁当箱法」が当院で導入できるのか検討中である、との話題提供がありました。病院と地域のクリニックとの栄養指導の連携や、生涯続く食事療法はどうあったらよいか、課題は山積みで、続きは次回に持ち越されました。

（理事：薄金孝子）

●食育シンポジウム（高知）のお知らせ

「自然から食卓まで」地域丸ごと体験、いきいき高知
2009年1月10日（土）
基 調 講 演：針谷　順子
コーディネータ：久保田　賢
会　　場：高知市文化プラザ
＊詳細は同封のチラシをご覧ください。

●魚と食育フォーラムのお知らせ

「日常的な水産物の摂食とその効果に関する食生態学的研究」結果をふまえて
2009年1月24日（土）
会　　場：虎ノ門パストラル
＊詳細は同封のチラシをご覧ください。

●会費納入のお願い

まだ2008年度年会費のお振込みをされていない方は、同封の振込用紙（郵便局）をご利用になるか、下記口座に、12月26日までにお振込みをお願いいたします。＜銀行振込先＞三菱東京UFJ銀行　高田馬場支店（普）1517770 特定非営利活動法人　食生態学実践フォーラム